愛たい菜

問 **運営状況について**

答 産直市「愛たい菜」については、4月24日にオープンし、順調な滑り出しであると認識しています。売上状況については、約1カ月間で、1日平均約280万円、レジ通過数が1日平均2600人から3000人となっています。

オープン当初は、生産者も従業員も要領を得ないまま大型連休を迎え、出荷量の調整や接客などの対応が十分できず、お客様には御迷惑をおかけする状況が見受けられました。特に、午後からの商品不足は深刻で、その不足を補うため、県内外などからの仕入れ品で対応したこと、オープン当時農産物の市場価格が高騰していたことも相まって、直売所としては割高だと感じられたお客様も多かったと聞いています。

現在では、生産者がみずから売上状況や来客数を分析することで、計画的な出荷ができるようになりつつあり、地元生産者による商品割合が約8割と、当初から比べ1割以上上昇して、価格の設定も消費者に安心してお買い求めいただける価格となっています。

しかしながら、いまだ商品によっては午後から品薄になることがあり、その主な要因の一つに、出荷登録者数が不足していることが挙げられます。当初の計画では、施設の規模に見合う出荷登録者数を1000人から1200人と見込んでいたが、現時点での登録者数は約700名程度にとどまっており、引き続き出荷者の募集に努めるとともに、追加出荷の促進や生産計画の策定など、出荷体制の強化を行い、品ぞろえの充実と価格の安定が図られるよう支援していきたいと考えています。また、大洲ブランドとして加工品や特産品などを中心に、多様で特色のある商品を充実させることにより魅力ある店舗づくりが図られるものと期待しているところです。

毎日多くの買い物客でにぎわう産直市「愛たい菜」

また、さまざまなイベントや啓発活動を行い、生産者と消費者との交流はもとより、地場産品のPRや地産地消の推進により、多くの方に親しまれる施設となるよう支援を行っていきたいと考えています。

地域活性化策

問 **経済の活性化について**

答 短期的な視点としては、観光農園、いもたきなどの活性化はもちろんであるが、うかい観光についても今年から昼うかいを実施し、うかい料理に地域の特産品を積極的に取り入れるなど、新しいうかい観光のスタイルを模索しているところです。

大洲北只IC付近

また、観光客にとって大洲の玄関口となるインターチェンジ付近に産直市「愛たい菜」がオープンしており、観光客が「愛たい菜」に立ち寄り、大洲の魅力ある農産物をはじめ加工品や特産品を購入することで、食を通じて大洲を対外的にPRしていただくことも効果的だと考えています。

また、長期的には愛媛県経済成長戦略2010の観光ビジネスの項目にもあるように、地域に根差した観光振興や東アジアをはじめとした海外からの誘客を図ることも検討していきたいと考えています。

また、生産、商品の加工、流通を複合化させ、付加価値をつけて高度化を目指すという、いわゆる第6次産業を推進することが大洲市の産業振興、地域の活性化に向けた糸口になるのではないかと考えており、今後皆様の御意見を伺いながら地域活性化の方策を探っていきたいと考えています。

雇用問題

問 **求職者数の推移と雇用対策について**

答 ハローワーク大洲管内の有効求職者数については、平成22年3月末現在1317人で、昨年3月末現在1322人とほぼ同数となっており、市町村合併後は、おおむね1100人から1400人前後で推移をしています。なお、有効求人倍率については、平成22年3月末現在0・64倍で、前年の3月末0・49倍、4月末が0・39倍、5月が0・32倍という厳しい数字と比べますと、若干持ち直してきてはいるものの、依然として厳しい雇用環境に変わ